

## 平成26年度 森林総合研究所北海道支所研究評議会

### 1. 開催日時・会場

平成27年2月10日(火)14時00分～16時20分

森林総合研究所北海道支所 大会議室

### 2. 評議会委員

安齋 保 委員(下川町長)

坂田 幹人 委員(北海道森林管理局森林整備部長)

佐藤 冬樹 委員(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授)

### 3. 出席者

北海道支所:支所長、産学官連携推進調整監、地域研究監、チーム長、研究グループ長、連絡調整室長、庶務課長

北海道育種場(オブザーバー):育種場長、育種研究室長

### 4. 評議会内容

#### ・北海道支所活動報告

組織(研究員が減少)

予算(研究員の減により交付金は漸減。外部資金は前年並み)

研究推進(支所の主要課題の説明 農食研事業、交プロ等)

広報活動、地域連携(各種イベントにできる限り対応して PR)

- 「国際生物多様性の日記念シンポジウム」を開催し、130人の参加を得た。

#### ・北海道育種場活動報告

特定母樹種穂増殖温室の新築、トドマツ優良品種の開発、カラマツ種子安定供給の取組

#### ・研究紹介(主要成果をピックアップして紹介)

- 「低コスト育林について」原山尚徳(植物土壌系研究グループ)  
(大苗やコンテナ苗を使った北方樹種の低コスト造林の話題)
- 「森林資源としてのエゾシカ管理」松浦友紀子(森林生物研究グループ)  
(シカ肉を利用、流通するための管理システム、狩猟者の人材育成等の話題)

### 5. 評議会委員からのコメント

**安齋委員:**ひとつひとつは小さな研究だが、長く続けることによって山作りに貢献する。支所の研究は地域のために重要なので今後とも研究を継続して欲しい。

**坂田委員:**国有林としても様々な面で技術面のアドバイスなどを支所からもらっている。引き続き協力願いたい。

**佐藤委員:** 大学も交付金が年々削減されており外部資金の重要性が増しており、似た状況と感じた。また北大はグローバル COE に選ばれており留学生の教育など国際化が求められているが、逆に地域に根ざした研究がしにくい状況になっている。そうした面で支所は地域に根ざした研究を行える点で重要な拠点である。